



























「ほ、本当にあなたの言う通りにすれば、
あの子たちを返してくれるのねっ?」

「しっけーな。そうだって言ってるだろ
あんまりグダグダ言うとな、あいつら殺しちまうぞ?」

「わ、わかってるわ…!!
それで? 何をすればいいの?」

ル
ハ

ギ
ッ



「おん、おんのお世話してんねよ」

「ふふふ、ふふふね
ち、ちちち、ちん……!」

レ、レ、レ、
ッ、ッ、ッ、
ム、ム、ム、

「ひっ!?」

ホロ
ー



「ああ、チンポだ。」

「アウトローなんだから見たことくらいいあんだろ?」

ハキ

トキ

「っ…! え、ええ!もちろんよ!」

「この私がこんな皮被りのち、チンポで動じるわけないじゃない!」



「おーおー、威勢のいいこった。
それじゃあまず、こいつの匂いをしつかり覚えてもらおうか。
おら、頭動かしたらお前の仲間殺すぞ」

「うう…」

クホ

クミン

ゴホ

クミン

「そのまま鼻から息を吸え
深く、ゆっくりとな」

「…すうー…げほっ!! く、臭い…!!」

「公衆便所と、チーズが混ざったみたいな酷いニオイ…!!」

「おい、動かすなっつたよな？」

「NO!! Mr. Mumenano!... Mumenano!」

ガッ

ぐっ

リッ

「これが最後のチャンスだ
俺がいいと言うまで
チンポ鼻先つけて呼吸しろ
もちろん鼻でな」

「うう... すう... くっ...
ふ... すう... ふう...」

「へへっ、頑張るじゃねえか
一週間洗わずに被せてたからなあ
頭の中をチンポで犯されてるみたいだろ？」

「こんなのっ…全然っ
どうってこと…ない…っ！」

「いつまでその威勢が続くかな？
そら、剥いてやるよ」

「うっ、また、濃い匂いが…！」

「チンカスもびっしりこびりついてるだろ？
今度はこいつを綺麗にしてもらおうか
お前の舌でな」

ビクッ

もあ…

「あ、これを舐めるってらんの……」

「あっ」

「く、わ、わかつてる……」

舐めて綺麗にすればいいんでしょう
やってやるわ……！んえ……れるっ……べる……」

おぞ

ジュル

リップが……

ジュポ

「おいおい、そんなんじゃ
いつまで経っても終わらねーぞ
舌先だけじゃなくて全部使えよ
カリ首と裏スジもしっかり舌這わせろ」

「くう……！べろっ……れる……っ
こ、こへで、いいへしよ……!？」

ダイムッ

「んぶう!？」

「ダメだ。つたく。仕方ねえから教えてやる
こうすんだよっ!」

ク
ッ

カ
ニ

ビ
ク
ニ

ア



「おお…♡ いい具合のノドまんこじゃねえか♡」

「んぶーっ！ んぐお！ おげえ…！」

んんん

「吐くんじゃねえぞ。それと…
歯あ立てたら、わかつてるな？」

「…むぐぐぐっ、んむっ、うぐ…！」

おげえ

んんん

ギェウウウ

「んぐっ、ぶぶ、ぐぼっ……!」

「いやあ! 乱暴に動かさないでっ!」

「口のなか、ちんぽでグチャグチャやしないであえ!」

ジュポポ

ジュルル

↑

「しっかしひでえツラだな、
鼻水とヨダレと涙でグシヤグシヤだ。
興奮するぜ♥」

「ぶっっ! んっ! ぐえっ

んぶ、ぶぐぐっ……!」

(誰のせいで、こんな顔してると……!)

「おーおー、睨みつけて、怖いねえーW
つと、そろそろ射精そうだ」

キッ

ゴムルルル

「ぶぐっ!! んーっ! むーっ!」

(ひっ!! ふ。膨らんでる!!)

で、出るっで、まさか、このまま……!)

「おらっ、喉まんこに種付けしてやる！
しつかり受け止める、牝豚が！」

「んぐーっ！ んううううう！」

（いやあああつ！ 口こつ、

口に精液ぶちまけられてるうううう！）

ん、

ゴボッ

んんんんん

トビムルル！！

「ん、んぼっ……！
ぼ、ごぶえ……！」

（すごい量……！ 変な味で、ねばっこくて、喉に絡んで……
苦し……！ いき、できな……！）

「ふう…♥ 特濃ザーメン思いつきりぶちまけてやったぜ♥
ぷつ、鼻からザーメン垂れてんじやねえか。
おら、飲み込まねえとザーメンで溺れ死ぬぞ？」

「んぼ…！ んぐ…っ！ んぐ…っ！」

「おっ♥ ちんぼ啜えたまんま飲み込むたあ、さすがアウトローW
ほら、いったん抜いてやるよ」

ンクッ

ンクッ

ゴク

ゴク



「ぶはっ……! は……♡ は……♡」

（の、飲んじやつた…）

せーえき…おなか、たまつて…）

ポ————…

コホッ

ケホッ

ヌル

「酸欠でいい具合にバカになってんな。
おい、お前が汚したチンポなんだから
お前が責任もって綺麗にしるよ」

「ぶっく……!」

「ちんぽ、また、つつこまれて……」

「あー、なんだか催してきたな」

「ごぼっ!? がぼぼ……!」

「うそ、これ、おしっこ……!」

「吐いたら仲間は全員殺す」

「ん……!? ……くっくっ、くっく……!」

「わたし、おしっこまで……」

くさくて、あたま、ぼーっとして……」

「なにも、かんがえられない……」

ゴク
ゴク

おげん

びびびび

ピチャ

ヨロヨロ

「はは、いいぞ。今からお前は便所だ。」

俺の精液と小便、あとはクソだけくれてやる。

もうその口でまともなものも食えろと思うなよ♡」

「…ん、ぐえつ、み…みんなにゃは…わたしひがあ…♡
たしゆけるんだからあ…♡」





























